

津山城の堀は、城山の南北と西の三方を囲むように築かれていました。そして、地形の高低差のため、高い位置にある北の堀は空堀となり、そこから下っていった西や南の堀に水がためられていました。

津山城の堀の幅は20メートル以上ありましたが、雨などにより多くの泥や砂が流れ込むため、常に堀さらえが必要とされてきました。また、ごみ取りや除草など、堀の中の掃除も欠かせなかつたため、城下町の町人が負担する様々な町役の中には「御堀掃除」が含まれていました。

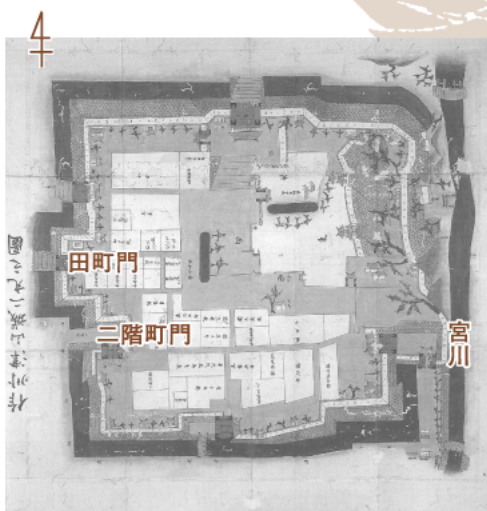
江戸時代、城郭に関する造作にはすべて幕府の許可が必要でした。寛延元年（1748）、津山藩では城郭の補修にあわせて、定期的な堀さらえと大雨の後などの臨時の堀さらえの許可を取っています。定期的な堀さらえが必要だったのは田町門から二階町門にかけての堀で、残りの部分は臨時の堀さらえで対応することになっていました。

そうした中で、宝暦6年（1756）には、二階町門から田町門までの定期的な堀さらえをしている場所が、通常以上に埋まっていることがわかりました。そこで、翌7年の春に村々から集められた人足で大掛かりな堀さらえを実施し、後は城下町から人足を出して毎月少しずつ堀さらえをすることにしました。

しかし、周辺の村々では1、2年不作続きで農民たちが困窮していたことから、大掛かりな堀さらえを同8年の春まで延期としました。そのため、4月から翌年の春まで城下町の33町で、1町から1人を人足として出して毎月堀さらえを実施することとしたのです。

津山城百聞録

～津山城の堀さらえ～



▲津山城の堀
(作州津山城二丸之図・津山城資料編から)

するとの訴えが出され、藩で検討した結果、扶持米を与えて人足を集めることとしました。

このような有償による方法がその後定着したらしく、天明（1781～1789）のころには、田町門から二階町門の間の堀さらえは、入札によって請け負われることとなりました。その中には次のような思いがけないできごともありました。

天明8年（1788）、藩の作事場では、堀さらえの経費を14貫700目と見積もりました。ところが、入札の結果、5貫570目で落札されたのです。そうして堀さらえが始まったのですが、この数字は明らかに誤りで、請負人は私財を投入しても作業完了の見込みが立たなくなっていました。そのため、藩では請負額の増額を認め、合計10貫500目として作業の完成をめざすこととなりました。

藩にとつても住人にとつても、津山城の堀さらえはたいへんな作業だったのです。

つやま
広報

2月



編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部行政広報室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



地域で子どもを育てるためには、よその子どもわが子と同様に接することが大切です。子どもだけではなく、困っているお年寄りには何かお手伝いしたいと思います。自分の親の姿でもあり、将来の自分の姿でもあり…。(鉄)

子どもへの声かけ。せめて朝だけでも小学生に「おはよう」と声をかけたいです。ほんの少し身支度を早くすればいいのですが、これがなかなか。今回、地域のいろいろな人の話を聞かせていただき反省しきりです。(e)

つぶやき
編集室

雪、雪、雪。曇りつになるほど今年は大雪。私の家の軒下ですぐにでもかまくらができそう。子どもは大喜び。でも車通勤の私はアイスバーンで毎日肝を冷やしています。♪雪やこんこんなんて悠長なこと言われません…。(X)

12月中のひとの動き

人口	111,360人(前月比△57)
男	53,139人(同△49)
女	58,221人(同△8)
世帯	43,005世帯(同△14)
転入	154人
転出	195人
出生	91人
死亡	107人

(1月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください